

イザというとき慌てない! 「男と女の快護学」

介護保険入門 上手に使うカンどころ 〈9〉
かかりつけ医選びのコツ



著書紹介

女の本音で言わせて、これぞ
男の総仕上げ
聞くは易く 行うは難し
四六判 182頁
価格1400円(+税)

おちとよこ

高齢者介護、医療、福祉、教育、育児、暮らし、それにまつわる家族、女性問題を中心に、新聞、雑誌等に執筆のかたわら、講演やテレビに出演。国、自治体委員を歴任。
主な著書に「一人でもだいじょうぶ～晴ればれ冬たく～」日本評論社、「第3版・介護保険上手に使うカンどころ」「入院・介護SOS」創元社、「シングル介護」NHK生活人新書 他。また「生活図鑑」「あなたの小さかったとき」「ただいまお仕事中」福音館書店、「おばあちゃんのさがしもの」岩崎書店など、絵本、児童書も多数。

ほんのりと酔って夫婦の薬用酒：前号の悠悠川柳にほのぼの。この作者同様に、各自各様の健康法をお持ちの方は多いことでしょう。出来ることならいつまでも健康でいたいものですが、嫌でも病院とのご縁が深まるのが高齢期。実は介護保険を上手く使うためにも、医師選びはとても重要です。

●急性から慢性へ。変わる医師選び

高齢期のかかりつけ医選びは、悩ましいものです。若いころのような急性期の病気なら、診療科別に専門化した最先端の検査や治療ができる大病院が第二ですが、高血圧や糖尿病、心臓や呼吸器、認知症など、慢性的な症状に長く付き合わなければならぬ高齢期は、そうはいきません。専門的に細分化した大病院では、かえって全体的な総合治療がむづかしくなることもあります。勤務医は転勤もあります。また、患者がいつまでも病院へ通えるとは限りません。

「治す」ことから、全身の症状を少しでも楽に「治める」治療へと変わりゆくのが高齢期。さらに、介護サービスを利用

用したときにも、かかりつけ医は重要な役割を果たします。

●要介護認定の明暗を握る医師

介護サービスを利用するには、介護保険証を添付して、「要介護認定の申請」という手続きを、地域包括支援センター（包括）などで行う必要があることは、54号などでもお伝えしましたが、その申請用紙には、必ず医師名を記入する欄があります。主治医意見書（介護保険の認定にあたり、医学的所見を記載する重要な書類）の記入を依頼するためです。そこで指名した医師が書く意見書の内容次第では、実際より軽度、場合によっては自立と判定され、必要なサービスが利用できなくなることがあります。

●高齢期のかかりつけ医の条件

- 介護サービス利用にも欠かせない高齢期の医師探しの条件は、
- 出来れば自分より年齢が若い。
- 何でも相談しやすい

最寄りの包括や医師会へ問い合わせるか、インターネットが使えれば、「ワムネット」や「全国在宅療養支援診療所連絡会」で検索すると、在宅医療を行う全国の医療機関や会員リストを見ることが出来ます。ケアマネジャーや訪問看護師、ヘルパー、近所の口コミも役立ちます。ただ残念ながら、帯に短したすきに長

し、と100%満足できる医師はなかなかいないもの。そこで大切なのは相性と信頼関係です。これは「朝夕とはいきませんから、健診や風邪など診察の機会を利用しながら、日々心がけておくことです。千里の道も一歩から。（次号は気になる「介護のお金」をお届けします）」

- 持病の専門医で、開業後経験を積み、総合的な診療にも慣れている。
- 24時間、365日の往診や連絡が可能
- 入院治療や専門治療が必要なとき、病院紹介と情報提供をしている。
- 認知症や全身症状が把握でき、高齢者医療に明るい。
- 介護保険の主治医意見書の詳しい記載ができる。
- 介護保険の認定審査委員会や看取りまで行つていけばベスト。
- でも、「夜はシャッターが閉まって、連絡も取れないクリニックばかり」というため息が聞こえてきそうです。

●どうする?かかりつけ医の探し方

こうした声に遅ればせながら、国も往診や自宅での看取りまで行う開業医を増やす政策を始めました。それが「在宅療養支援診療所」というもので、下の囲みにある設置基準を満たすと、一般の開業医よりはるかに高い診療報酬を得られるので、近年、急増しています。

近くでこうした診療所を探すには、

「在宅療養支援診療所」の設置基準

- 24時間連絡を受ける保険医または看護職員を配置し、その連絡先を文書で患者や患者家族（以下患者）に提供していること。
- 他の保険医と連携して、24時間往診が可能な体制を確保し、往診担当医の氏名、担当日などを文書で患者に提供していること。
- 他の医療機関や訪問看護ステーション等との連携で、24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保し、担当の氏名、担当日などを文書で患者に提供していること。
- 他の医療機関との連携で、緊急入院を受け入れる体制を確保していること。
- ケアマネジャーと連携していること。
- 定期的に看取り数を報告していること。

・快護のポイント

「高齢期は、大病院の
有名医より、近くで
相性のいい開業往診医を」